

水の記憶を訪ねて

狛江は、水に恵まれた地域で、市域のいたる所に川や水路が通じ、自然のせせらぎは農業用水や生活用水として利用されてきました。

かつての野川は、市域のほぼ中央を北から南に向かって蛇行するように流れ、水神社付近で多摩川から取水した六郷用水は、西から東に向かって市域を横断するように流れていました。また、狛江駅前の弁財池から流れ出る湧水は、清水川を形成し、近隣の田畑を潤していました。

しかし、生活の近代化や急速な都市化の過程で、排水が無造作に川や水路に流れ、水質の悪化は深刻な問題となりました。それとともに、野川は、周辺の耕作地が宅地へ変わっていくと、雨水はけ口となり、台風のたびに氾濫を繰り返していました。また、六郷用水は、耕作地の減少によって生活排水となり、次第にその役割を終えていきました。

こうした環境問題や自然災害への対策として、昭和40年代に野川の改修と六郷用水の暗渠化がなされました。これを機に、市域を縦横断する川や水路は姿を消してしまいました。



六郷用水の取水口 (昭和初期) A-3
堤防が切れ込む先に取水口が見えます。

六郷用水の記憶



田中橋 (昭和39年) B-3
橋の欄干の一部が近くの稲荷の脇に残っています。また、地点標識に田中橋の名が残っています。



北谷橋 (昭和18年) C-3
現在の市役所前交差点、すぐ近くには駄倉橋が架かり、写真は駄倉橋から写したものと推測されます。



世田谷通り沿いを流れる野川 (昭和47年) D-3
岩戸南二丁目のショッピングセンター前。写真は六郷用水に架かる一の橋から湘南橋の方向を写しています。

水の記憶コース

散策ルート

- 1 狛江駅
- 2 旧野川と六郷用水の合流地点
- 3 千手院
- 4 小足立八幡神社
- 5 西野川せせらぎ
- 6 石橋供養塔
- 7 大橋
- 8 子之三嶋神社
- 9 寛東(バス停)

野川の記憶

野川の記憶
戦前実施された地盤整理によって、蛇行する野川が南に大きく曲がりました。緑道もここで大きく曲がります。

野川の記憶
野川から分水した用水が流れていた場所で、かつての水流が偲べます。子どもたちの憩いの場になっています。

野川の記憶

野川の記憶
江戸時代には、橋を架ける際に、橋が安全で丈夫に長持ちすることを願って、供養塔を建てることがありました。また、橋の架け替えや破損した橋の修復が終わると、石橋供養がなされました。

野川の記憶
野川が埋め立てられた後も橋がそのまま残されています。

多摩川清遊コース

- 1 和泉多摩川駅
- 2 玉泉寺
- 3 多摩川決壊の碑
- 4 多摩水道橋
- 5 五本松
- 6 水神社
- 7 玉翠園跡
- 8 玉川碑(万葉歌碑)
- 9 水神社
- 10 古民家園(むいから民家園)
- 11 泉龍寺
- 12 弁財池
- 13 狛江駅

狛江散策(⑩)コース

- 1 狛江駅
- 2 狛江教育発祥之地
- 3 駄倉塚古墳
- 4 経塚古墳
- 5 兜塚古墳
- 6 馬頭観音の道しるべ
- 7 伊豆美神社
- 8 玉川碑(万葉歌碑)
- 9 玉翠園跡
- 10 古民家園(むいから民家園)
- 11 亀塚古墳
- 12 泉龍寺
- 13 弁財池
- 14 狛江駅

狛江散策(⑪)コース

- 1 狛江駅
- 2 揚辻稲荷神社
- 3 庚申塔の道しるべ
- 4 清水塚1号墳
- 5 白幡菅原神社
- 6 日枝神社
- 7 圓住院
- 8 岩戸八幡神社
- 9 土屋塚古墳
- 10 一の橋の石橋供養塔
- 11 慶岸寺
- 12 喜多見駅

狛江市文化財散策マップ



発行 | 令和2年3月 | 発行所 | 狛江市教育委員会 | 狛江市刊行物登録番号 H31-51 | 頒布価格無償 | 地図は令和2年2月1日現在の情報です(一部令和2年度編成予定の公共施設等を含みます)。
地図提供 | 東京グラフィック株式会社 | 国土情報院のデータ提供(国土基本情報)を加工して作成

狛江古墳群 -古墳のまち狛江-

狛江の古墳は、古墳時代中期にあたる5世紀半ばから6世紀半ばの約100年間に集中して造られました。その数は60〜70基ほどと推定され、数多くの古墳が見られることから「狛江百塚」と呼ばれてきました。

古墳の分布は、和泉・岩戸・猪方各地域に大別できますが、切石切組みの横穴式石室をもつ猪方小川塚古墳の発見により、猪方地域の古墳については、その築造時期の再検討が必要になっています。

現在、墳丘が残る古墳は少なくなっていますが、発掘調査にて古墳の周溝が発見され、これまで知られていなかった古墳の存在が明らかになることがあります。

狛江に古墳が造られるようになったのは、多摩川の低地から台地へと緩やかに上る地形によると考えられますが、裏面の地形図上に主な古墳の位置を落としてみると、いずれも台地の縁に沿ってあり、多摩川を舟で移動する人々が見上げるような地点を選んで、象徴的に造られたと考えられます。

10 11 亀塚古墳

最大長約41m、高さ約7mの帆立貝形の前前方円墳で、狛江古墳群の中でも屈指の規模をはこぶ古墳でした。

昭和26年(1951)に発掘調査が行われ、銅鏡や鉄剣、馬具などが出土しました。このうち、金銅製金具に見られる人物や動物の画像が、高句麗の古墳石室内の壁画に類似していることから、狛江と遼東人との関係が指摘されました。

その後、墳丘の大部分が削られてしまい、前方部の一部が残るのみとなりましたが、前方部周辺を整備し、通路や広場を設けて植栽などを施し、令和2年に古墳公園として開園しました。

なお、出土品は東京国立博物館などに収蔵されています。

発掘調査時の亀塚古墳 (昭和26年) B-4

猪方小川塚古墳の横穴式石室 (B-4)

1 猪方小川塚古墳

直径約15m、高さ約3mの円墳で、7世紀半ばに築造された古墳と考えられます。平成23年の発掘調査により、泥岩質の石材で造られた切石切組みの横穴式石室が確認されました。石室は、天井部と壁面の一部が失われているものの、良好な状態で残されており、玄室の床面上から耳環や鉄釵などの副葬品が出土しました。

多摩川流域全体で見ても数少ない切石切組みの横穴式石室を、良好な状態で保存しつつ活用を図るため、保存・整備の方法を検討してきました。そして、石材に保存処理を施し、覆屋を設けて前面からガラス越しに石室内を観察できるようにし、墳丘を復元するなどの整備を行って、令和2年に古墳公園として開園しました。

9 4 兜塚古墳 (都指定史跡)

直径約36m、高さ約5mの円墳で、築造された当時の原形をほぼ留めていると考えられます。6世紀半ばに築造された古墳と推定されます。

B-3

C-3

4 9 土屋塚古墳 (市指定史跡)

直径約35m、高さ約4mの円墳で、東側に小規模な遺構があります。周溝から大量の円筒埴輪の破片が出土し、その製作技法から上野国(現・群馬県)の工人集団との繋がりがうかがえます。

B-3

C-3

狛江百塚コース

- 1 和泉多摩川駅
- 2 猪方小川塚古墳
- 3 前原塚古墳
- 4 清水塚1号墳
- 5 土屋塚古墳
- 6 駄倉塚古墳
- 7 経塚古墳
- 8 松原東稲荷塚古墳
- 9 白井塚古墳
- 10 兜塚古墳
- 11 泉龍寺

狛江の古道

- 市内には、江戸時代以前から人々が往来していた古道が伝わっています。
- 1. 鎌倉道** 関東各地から鎌倉へと向かう古道で、道筋は諸説あて定かではありません。そのため、鎌倉道の伝承は関東各地に残されています。狛江の鎌倉道は、古くからあった道なので、鎌倉道と呼ばれるようになったと考えられます。
 - 2. 品川道** 品川(現・品川区)と武蔵国の国府(現・府中市)を結ぶ古道です。江戸時代、奥多摩地域で採れた木材は、筏を組み、多摩川に流して輸送され、筏の乗り手は棚路に品川道を使っていた。そのため、品川道は筏道とも呼ばれていました。
 - 3. 大山道** 丹沢山の大山に向かう古道で、江戸時代中期以降に山岳信仰が盛んになると、大山参りの道として使われていました。
- ### 古道の目印一道しるべ

古道を辿りながら、道しるべを探してみませんか。

市内には、江戸時代に立てられた石道の道しるべがいくつか残っています。目印としての道の岐点などに建てられ、今では、その地点に古道が通っていたことを伝えてくれています。

B-3

文化財関連施設

10 古民家園 (むいから民家園) B-3

元和泉1-15-5
電話 | 03-3489-8981
開館時間 | 午前9時30分〜午後4時30分
(休 月 日) 月曜日(休日)・年末年始(12月28日〜31日、1月1日〜4日)

12-c 泉龍寺仏教文庫 B-3

元和泉1-6-1
電話 | 03-3480-3251
開館日 | 開館日は月曜日の午前10時〜午後4時30分
休館日 | 月曜日(休日)・年末年始(12月28日〜31日、1月1日〜4日)
※ 図書の貸出しは行っていません。